

議 事 録

日 時	令和8年1月20日(火) 14:00~15:40	場 所	福島市役所 複合棟313会議室
会議等名	第3回 福島市5歳児健康診査導入のための検討委員会		
議 題	5歳児健康診査の実施方針と実施までのスケジュールを確認する。		
出席者	次第の通り		
主な内容	<p>次第に沿って進めた。</p> <p>【五十嵐委員長挨拶】 12月3日に開催された福島市医師会の母子保健委員会で、5歳児健診の共有会を行った。幼稚園・小学校との連携が重要になる。発達中心の健診の経験がないため不安があるとの意見があった。</p> <p>【説明】 (1)福島市5歳児健康診査実施方針(案)(資料①~③) 5歳児健康診査の目的、実施方法、5歳児健康診査票、フォロー図、発達に課題のある児童の支援体制の一覧を確認。前回の検討委員会であげられた意見の回答として、①「ふくしまサポートシート」を共通のツールとして活用すること、②同意が得られた児の健診データを教育委員会へ提供すること、③児の所属での様子は保護者が記入した問診票で把握することを説明。共通のツールとして県医師会が勧めている「発達チェックシート」を活用すると視覚的に分かりやすいのではないかと意見あり。市では「ふくしまサポートシート」を使用するとこども家庭課より回答。就学時健康診断時に「ふくしまサポートシート」を利用して情報共有をすることが望ましいと意見があった</p> <p>(2)福島市5歳児健康診査実施までのスケジュール(資料④) 各課からスケジュールの詳細を説明し、委員から賛同を得た。</p> <p>【意見交換】 5歳児健康診査は保護者が児の発達について気付き、理解するきっかけの一つになるため、保護者の支援も重要となる。 保護者が問診票の回答をするため、児の集団での様子を所属と共有したうえで回答できるような体制を整えていく必要がある。</p> <p>【今後について】 5歳児健康診査の実施の方向性が固まったため、詳細については今後担当者間で打ち合わせを進め、実施に向けた準備をしていく。</p>		

第3回福島市5歳児健康診査導入のための検討委員会 発言録

日時:令和8年1月20日(火)14時00分~15時30分

場所:福島市役所 複合棟 313会議室

○:委員意見・質問 ●:事務局の説明 ※いずれも要約

1(1)福島市5歳児健康診査実施方針(案)

○ふくしまサポートシートについて見てみると、よく考えられている。発達チェックシートを使用して5歳児健康診査を進めていく自治体もあるようだ。客観的なデータがあった方が評価しやすいのではないかと。

●福島市子ども発達支援センターで相談を受ける際に遠城寺式発達検査を使用しており、発達チェックシートの内容と類似している。結果は保護者と共有しており、その方法を継続する予定。

○ふくしまサポートシートは小学校への周知がもっと必要。問診表の「はい・いいえ」の順番が別々になっているのは意図があるのか。

●左に丸がつくと特に問題がない、右につくと課題があるとわかりやすくしている。実際の健康診査はデジタル化を予定しているため、保護者はアプリで入力する形。別な健康診査でも同じ形式で支障がないため、この形式で継続する。

○保護者が自宅で入力する形なのか？

●その通り。

●各小学校にふくしまサポートシート(支援の経過)を共有する時期はいつがいいか。

○就学时健康診査の際にふくしまサポートシートを共有していただくと、その後の学級編成を考えるうえでも助かる。入学後か春休み中でもいいが、早めに共有していただくとありがたい。

●就学时健康診査時、事前に説明なく持って行っても大丈夫か？

○連絡があってもなくてもどちらでも大丈夫。タイミングはいつでもいいが、早いほうが助かる。

○事前に入学する学校に情報をもらえると、児を丁寧に見ることができる。事前に伝えてもらうことが一番いい。

○ふくしまサポートシートは教育委員会に送られるのか。

●ふくしまサポートシートは保護者が所有するものなので、原本を外部に送ることはない。

○①健康診査後のフォロータイミングはいつ保護者に伝えるか。②サポートシートを利用している保護者は多いと感じるが、提出のタイミングで困っている。学級が決まるときに共有してみても、と伝えている。サポートシートは保護者が管理・共有という認識でいいか。

●①フォローの必要性などは、5歳児健康診査内の心理相談で保護者と共有する予定。保護者がその時点でフォローの必要性を認識するかはわからない。②その認識で間違いはない。サポー

トシートのマニュアルにも共有方法や時期については書いていない。保護者が主体的に共有してほしい思いがある。

1(2)福島市5歳児健康診査実施までのスケジュール

○小学校長会が4月にある。事業の周知の時期を学校教育課と検討してほしい。校長、教頭が知らないと言継ぎがうまくいかない。福大附属支援学校、大笹生支援学校も児童の支援を行っているので、周知先に含めるといいと思う。

●今後そのようにしていく。

【意見交換】

○保護者が児をどう認知していくか。小学校に入ってから保護者の支援は必要になっているが、健康診査後も心理相談で保護者のフォローをしていただきたいと思う。

○保護者の理解が大切だと感じている。健康診査の質問も多くなると思うので、スムーズに健康診査に参加できるような体制が作れるといいと思う。

○早期に発見することは大事。関係機関と協力しながら進めていきたい。

○保育園・幼稚園からスムーズに小学校につなげていきたい。

●保護者の理解が得られないと支援が入れない。5歳児健康診査は保護者が気付くきっかけや理解してもらえる機会が一つ増える認識である。実施していく中でブラッシュアップしていきたい。

○事後フォローは福島市こども発達支援センターで対応する予定か。

●その通り。保護者が医療機関等につながりたいときは繋げていく予定。

○何を基準にピックアップするかが医師内で課題になっている。医師の判断で医療機関か療育か決めることでいいか。

●健康診査後に再度保護者と面談して、保護者の意向を確認しながら支援していく。

○問診票の育児環境等の項目は医師が見るのか。

●問診表は国が示した項目となっている。保健師が問診で聞き取った後に項目をチェックする予定。判定は医師がつける。

○問診票の項目のみで集団の様子を知ることができるか。

○所属(集団)での児の様子は保護者と共有する。問診表は保護者が記入するものなので、保護者が児の様子をどう認識しているかが大切になっている。保護者に寄り添いたい思いと、客観的な児の様子を保護者にそのまま伝えていいのかと悩む。検討させていただく。

○5歳児健康診査の時期は適切か。3歳児健康診査から1年ほど空けないといけないのではないか。

●市では5歳0カ月で行う予定。3歳児健康診査は3歳半。就学時近くに健康診査をやるとフォローの期間が短くなる。